

モモ病害虫の発生状況（7月） 調査地点：福島地域9園地、伊達地域9園地

(1) 灰星病

果実での発生は確認されませんでした。

収穫期の20日前頃から果実への感染がしやすい状態になるため、散布間隔をあげずに薬剤散布を実施しましょう。

(2) せん孔細菌病

新梢葉、果実での発生ほ場割合は、平年並でした（図1、2）。

発病部位は見つけしだい除去し、園外に持ち出すなど適切に処分しましょう。

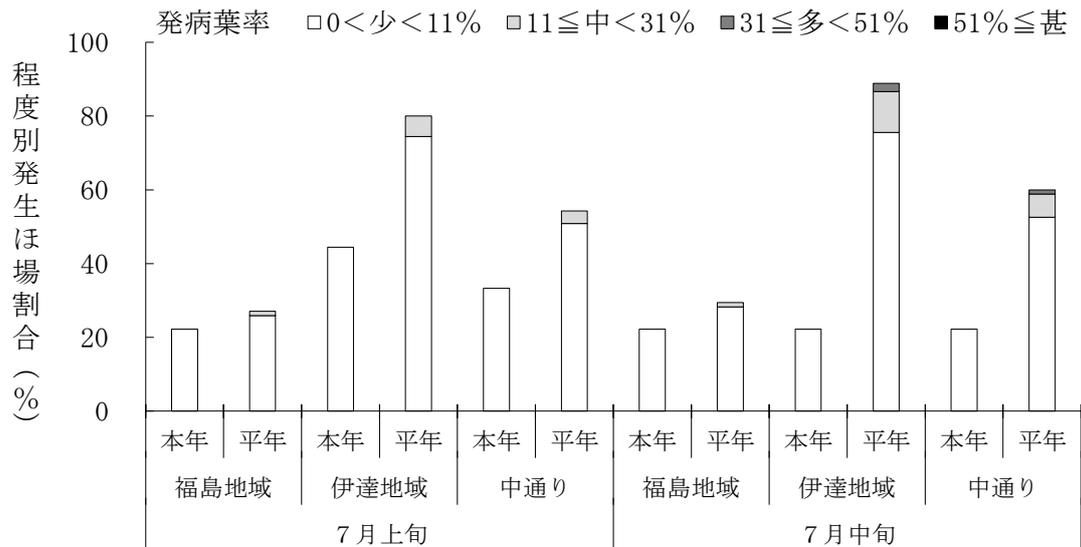


図1 モモせん孔細菌病の発生状況（新梢葉）

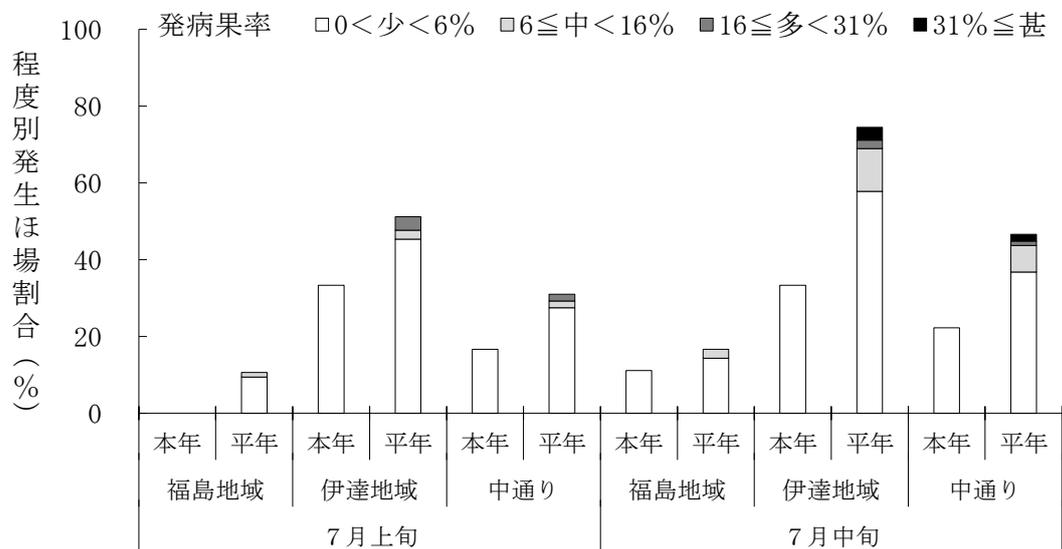


図2 モモせん孔細菌病の発生状況（果実）

(3) モモハモグリガ

新梢葉被害の発生ほ場割合は平年よりやや高くなりましたが、被害程度は高くなっておらず、前回調査より発生ほ場割合も低下していました（図3）。

園地を見回り、発生が多いほ場では収穫後であっても薬剤散布を実施しましょう。

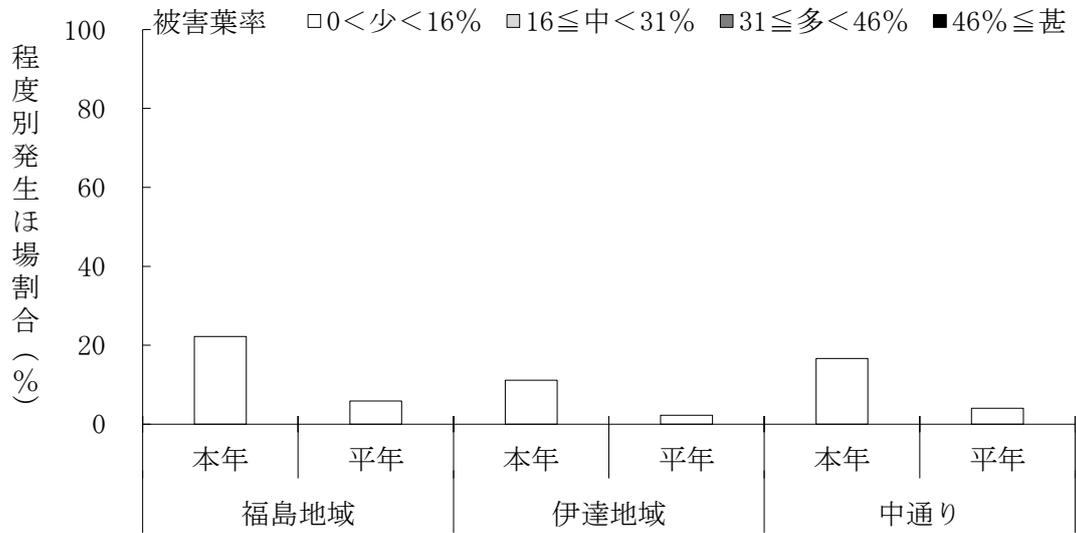


図3 モモハモグリガによる新梢葉の被害状況（新梢葉）

(4) ハダニ類

新梢葉での寄生ほ場割合は、平年よりやや高い状況でした（図4）。

園地での発生状況をよく観察し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達した場合は、薬剤散布を実施しましょう。

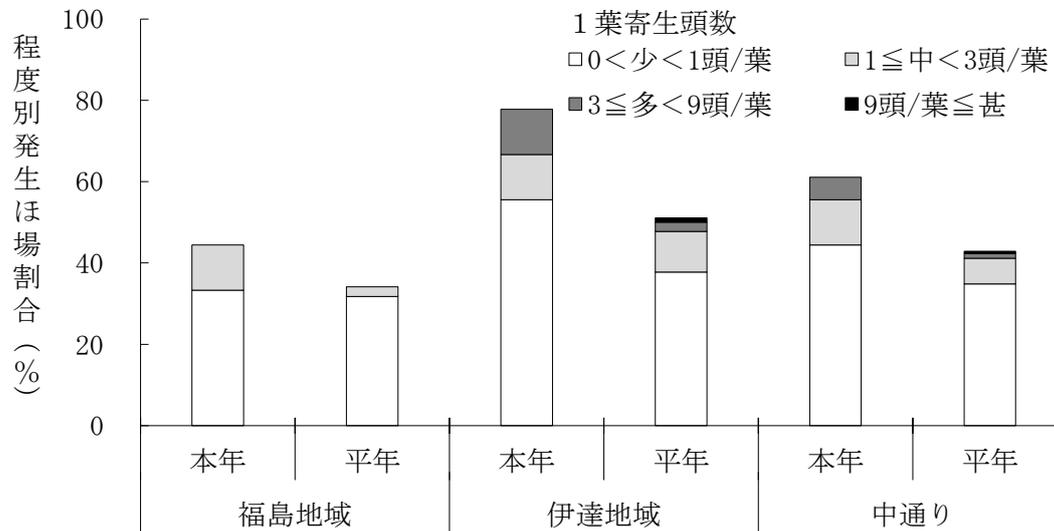


図4 ハダニ類による新梢葉への寄生状況

(5) ナシヒメシンクイ

新梢のナシヒメシンクイによる被害の発生ほ場割合は平年より高い状況でした(図5)。ナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺盛期は、気温が2℃ 高く推移した場合、8月1半旬頃と予測され、第4世代幼虫の防除適期は8月2半旬頃と推定されています(農業総合センター果樹研究所、7月18日現在)。

本種はモモ等の核果類の新梢伸長が停止するとナシ果実への寄生が増加します。モモでの新梢被害を防ぐとともに、例年ナシの果実被害が多い地域では、今後の防除を徹底しましょう。

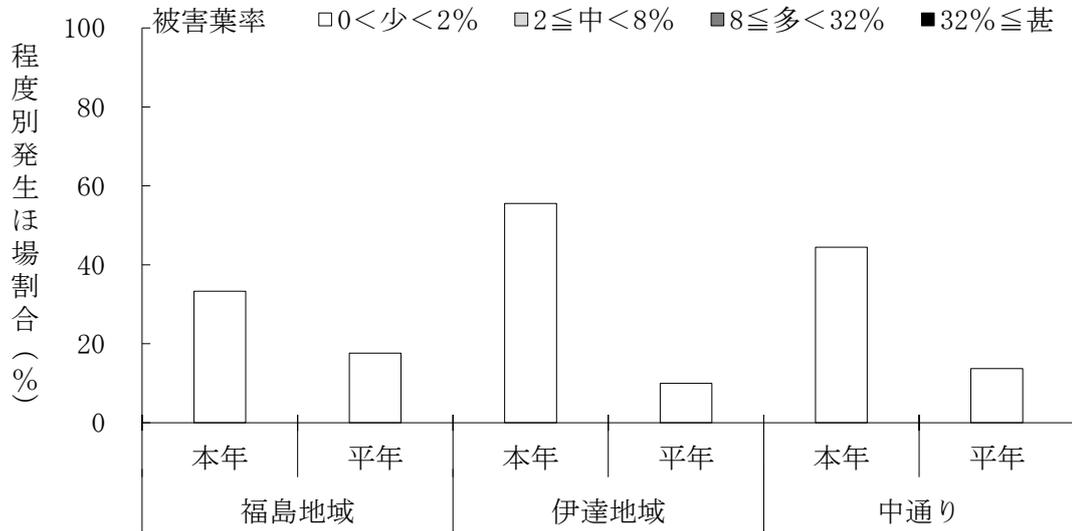


図5 ナシヒメシンクイによる新梢の被害状況(7月上旬)